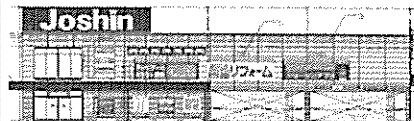


CASBEE[®]-建築(新築)

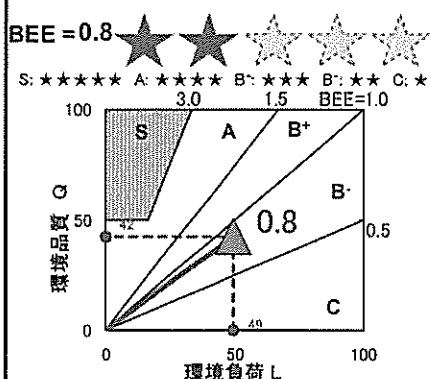
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD NC 2024 v1.22

■ 評価結果 ■

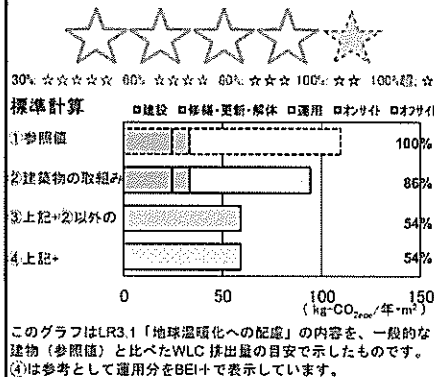
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)上新電機 京都八幡店 新築	階数	地上2F
建設地	京都府八幡市八幡南山87番地の一	構造	S造
用途地域	準住居・第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	3,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2026年5月15日
敷地面積	6,046 m ²	作成者	株式会社日企設計 森田俊和
建築面積	3,581 m ²	確認日	2026年5月15日
延床面積	6,913 m ²	確認者	株式会社日企設計 森田俊和



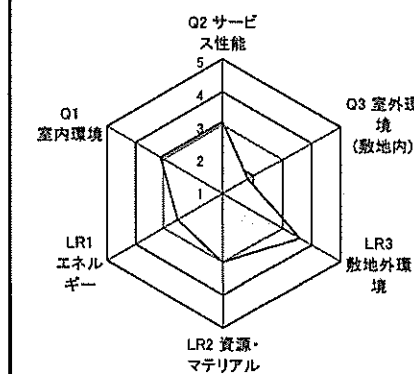
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)

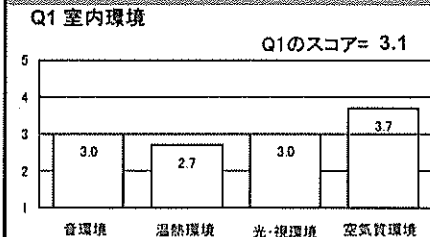


2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

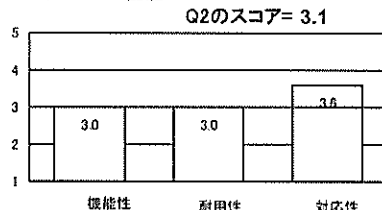


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 环境品质



Q2 サービス性能



Q3 室外環境（敷地内）

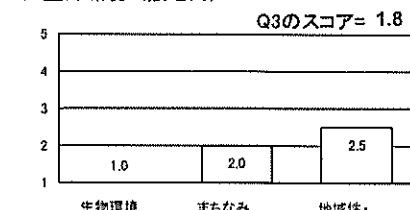
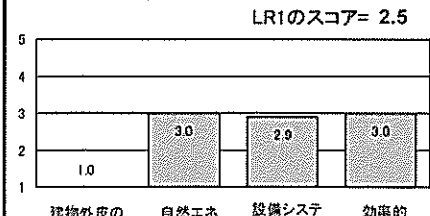
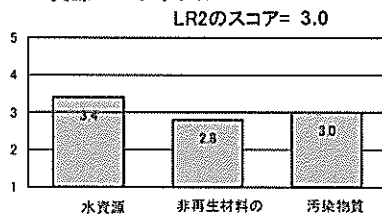


Figure 1. The effect of the concentration of the solution on the rate of the reaction.

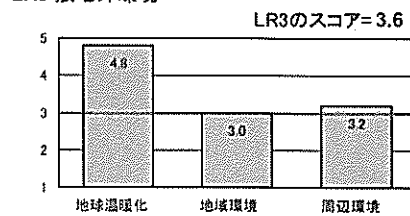
LR1 エネルギー



LR2 資源・マテリアル



LR3 數地外環境



3 設計上の配慮事項

敷地内に適切な量の駐車・駐輪スペースを設けている。駐車場の導入路は複数設けるなど周辺道路の渋滞緩和に配慮している。

特になし。

1000

内装材は全てF☆☆☆☆を使用し室内環境に配慮している。

Figure 1

売り場の天井高3.98mとし、開放的な空間としている。

[illegible]

敷地内にできる限りの緑地を設けた。

太陽光パネルの設置による太陽光の利用を計画した

節水型の衛生器具を採用した。

[illegible]

光害対策チェックリストの配慮事項の過半を満たし、
物照明無し

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)上新電機 京都八幡店 新築	階数	地上2F	
建設地	京都府八幡市八幡南山87番地の一	構造	S造	
用途地域	準住居・第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	3,000 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)	
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2026年5月15日	
敷地面積	6,046 m ²	作成者	株式会社日企設計 森田俊和	
建築面積	3,581 m ²	確認日	2026年5月15日	
延床面積	6,913 m ²	確認者	株式会社日企設計 森田俊和	

外観/パース等

この図は作成されていません。

この図は作成されていません。

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価結果 (レーダーチャート)
BEE = 0.8 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境効率 G (品質) vs 環境負荷 L	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記② このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。(④は参考として運用分をBEE+で表示しています。)	3(保健) N/A 4(教育) N/A 5(エンター) N/A 6(水・衛生) N/A 7(エネルギー) N/A 8(経済・雇用) N/A 9(イノベーション) N/A 11(都市) N/A 12(生産・消費) N/A 13(気候変動) N/A 15(陸上資源) N/A 17(実施手段) N/A * SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質			Q のスコア = 2.6		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	Q1 のスコア = 3.1	Q2 のスコア = 3.1	Q3 のスコア = 1.8
音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	機能性 耐用性 対応性	生物環境 まちなみ 地域性			
LR 環境負荷低減性			LR のスコア = 3.0		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	LR1 のスコア = 2.5	LR2 のスコア = 3.0	LR3 のスコア = 3.6
建物外皮の 自然エネ 設備システム効率化 効率的	水資源 非再生材料の使用削減 汚染物質回避	地球温暖化 地域環境 周辺環境			

3 設計上の配慮事項

総合			その他	
敷地内に適切な量の駐車・駐輪スペースを設けている。駐車場の導入路は複数設けるなど周辺道路の渋滞緩和に配慮している。			特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)		
内装材は全てF★★★★に使用し室内環境に配慮している。	売り場の天井高3.98mとし、開放的な空間としている。	敷地内にできる限りの緑地を設けた。		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境		
太陽光パネルの設置による太陽光の利用を計画した。	節水型の衛生器具を採用した。	光害対策チェックリストの配慮事項の過半を満たし広告物照明無し		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のことで、ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される